

要請活動を実施 ～農林水産大臣・副大臣及び農林水産省へ御礼～

去る2月15日（金）、農業農村整備事業予算確保に対する御礼並びに平成26年度以降の予算確保について要請活動を実施した。

当日は、農林水産江藤副大臣をはじめ、農林水産省農村振興局長並びに次長、宮城県選出国会議員を訪問し、予算確保に対する感謝の意を申し上げ、平成26年度以降も引き続き安定した予算を確保するよう要請した。本会からは、各支部長（大河原支部長大沼喜昭、仙台支部長三品幸徳、北部副支部長加藤孝志、東部支部長千葉仁一）をはじめ高橋専務理事が出席し、要請書を提出した。



江藤拓農林水産副大臣



實重重実農林水産省農村振興局長

要 請 書

「攻めの農林水産業」の実現に向けた農業農村整備事業予算確保に対する御礼

平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」から早いもので、まもなく2年の歳月が過ぎようとしております。これまで、津波による被災沿岸地域の土地改良事業に伴う償還金の利子補給など迅速な対応をいただき、水土里ネット関係者はもとより関係農家は、今後の地域農業復興の推進と再興への意欲につながるものと心から感謝をしております。引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

去る1月29日に閣議決定された平成25年度の農林水産予算案は「攻めの農林水産業」を実現するため、「国土強靭化」の旗の下、農業農村整備事業予算は平成24年度補正予算と一体となり、平成21年度を超える水準を確保することになりました。

土地改良区は、これまで永年にわたり「水と土」を適切に管理し、国民の食料の安定確保に努めて参りました。とりわけ、本県は水田の大半が低平地に位置し、加えて今回の震災により地盤沈下も発生したため、ポンプ場はじめ堰や水路等農業水利施設は、農業の枠を越えた公益的役割が増し、これら施設を管理する土地改良区の果たす役割も、地域社会の中での重要性となって参りました。

本県における農業水利施設はおよそ4,000箇所に及び、さらにため池は東日本で最も多く約6千箇所に及びます。また、その農業水利施設の約64%は耐用年数を超え老朽化が著しく更新・補修が大きな課題となっております。

このような「現場の声」を汲み取って頂き、農業の再生には農業基盤整備が必要不可欠であるという確固たる認識から予算獲得されるものと信じております。

我々水土里ネット（土地改良区関係団体）は、その課せられた使命の重要性を鑑みて、農や地域の一日も早い復旧・復興に取り組むとともに、持続的な農業を下支えする農業基盤整備、地域住民が安心して暮らすための防災・減災に取り組んで参りますので、平成26年度以降においても、引き続き安定した予算確保に取り組まれますようお願い申し上げますとともに、このたびの予算確保に関しましては、時間のない中の英断に衷心より御礼申し上げます。

要請活動を実施 ～村井県知事並びに中村県議会議長へ御礼～

去る3月12日（火）、農業農村整備事業予算確保に対する御礼並びに平成26年度以降の予算確保について要請活動を実施した。

当日は、宮城県村井知事をはじめ、宮城県議会中村議長を訪問し、予算確保に対する感謝の意を申し上げ、平成26年度以降においても引き続き安定した予算を確保するよう要請した。本会からは、伊藤会長、千葉副会長、三品副会長、高橋専務理事が出席した。



村井県知事への御礼



中村県議会議長への御礼

「攻めの農林水産業」の実現に向けた農業農村整備事業予算確保に対する御礼

平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」から早いもので、2年が過ぎました。この間、国、県のご高配により、津波による被災沿岸地域の農地の除塩対策や用排水機場、用排水路等の農業用施設の復旧・復興など迅速な対応をいただき、水土里ネット（土地改良区関係団体）はもとより関係農家は、今後の地域農業復興の推進と再興への意欲につながるものと心から感謝しております。引き続きのご支援をよろしくお願ひ申し上げます。

去る1月29日に閣議決定された平成25年度の農林水産予算案は「攻めの農林水産業」を実現するため、「国土強靭化」の旗の下、農業農村整備事業予算は平成24年度補正予算と一体となり、平成21年度を超える水準を確保することになりました。

県におきましても、平成24年度補正予算の措置や平成25年度農業農村整備事業予算措置をいただきましたことに対しまして、深甚なる感謝を申し上げます。

土地改良区は、これまで永年にわたり「水と土」を適切に管理し、国民の食料の安定確保に努めて参りました。とりわけ、本県は水田の大半が低平地に位置し、加えて今回の震災により地盤沈下も発生したため、ポンプ場はじめ堰や水路等農業水利施設は、農業の枠を越えた公益的役割が増し、これら施設を管理する土地改良区の果たす役割も、地域社会の中での一層重要な位置を占めています。

本県における農業水利施設はおよそ4,000箇所に及び、さらにため池は東日本で最も多く約6千箇所に及びます。また、その農業水利施設の約68%は耐用年数を超え老朽化が著しく更新・補修が大きな課題となっております。

このような「現場の声」を汲み取って頂き、農業の再生には農業基盤整備が必要不可欠であるという確固たる認識から予算獲得されるものと信じております。

我々水土里ネットは、その課せられた使命の重要性を鑑みて、農や地域の一日も早い復旧・復興に取り組むとともに、持続的な農業を下支えする農業基盤整備、地域住民が安心して暮らすための防災・減災に取り組んで参ります。

つきましては、平成26年度以降においても引き続き安定した予算確保に取り組まれますようお願い申し上げます。



去る2月7日（木）亘理町中央公民館において、経営体育成基盤整備事業「逢隈西部地区」の完工祝賀会が開催された。

当日は、関係機関から約150名が出席し、本会からは佐藤技監が会長代理として出席した。記念式典では、齋藤邦男亘理町長の式辞で始まり、宮城県農林水産部日置次長より挨拶を頂いた。また、仙台地方振興事務所薩川所長が事業経過を報告し、続いて来賓を代表して西村明宏衆議院議員より祝辞が述べられた。最後に、亘理土地改良区三品幸徳理事長の謝辞により式典を閉会した。



会場の様子



亘理町 齋藤邦男町長の祝辞

【逢隈西部地区 事業内容】

① 工事内容

- ・区画整理工 A=384.2ha
- ・道路工 L= 21.6km
- ・用水路工 L= 32.7km
- ・排水路工 L= 29.9km
- ・暗渠排水工 A=383.1ha
- ・付帯工一式

② 総事業費 3,303,145千円

※農業経営高度化支援事業は除く

③ 工 期 平成14年度～平成24年度



亘理土地改良区 三品幸徳理事長の謝辞



祝賀会



去る3月22日（金）松島町北小泉・下竹谷コミュニティセンターにおいて、農地整備事業（旧ほ場整備事業）「松島東部地区」の完工記念式典が開催された。

当日は、関係機関から約48名が出席し、本会からも伊藤康志会長（代理：佐藤技監）が出席した。記念式典では鶴田川沿岸土地改良区千葉理事長の式辞で始まり、仙台地方振興事務所柳谷部長より事業経過報告があった。また、大橋建男松島町長（代理：高平功悦副町長）より祝辞が述べられ、最後に村上換地委員長の謝辞により式典を閉会した。



会場の様子



鶴田川沿岸土地改良区千葉榮理事長の式辞

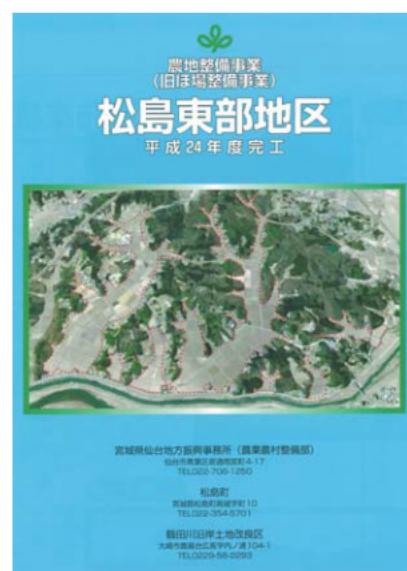
【松島東部地区 事業内容】

① 工事内容

- ・区画整理工 A=136.5ha
- ・排水路工 L= 29.8km
- ・道路工 L= 24.8km
- ・暗渠排水工 A=136.5ha
- ・用水路工 L=24.3km
- ・付帯工一式

② 総事業費 2,176,050千円

③ 工期（着工）平成10年度（完成）平成23年度



祝 角田土地改良区角田隈東土地改良区 合併予備契約調印式が開催される

～あぶくま川水系角田地区土地改良区～

去る2月14日（木）角田市農村環境改善センターにおいて、「角田土地改良区・角田隈東土地改良区合併予備契約調印式」が開催された。平成24年3月に

角田地区土地改良区統合整備推進協議会を設立し、合併へむけて検討を重ねてきた。両土地改良区の合併は、運営基盤の強化や行政との連携強化、土地改良区施設管理の一元化や事務の効率化等を目的とした。

調印式には、両土地改良区の理事・職員並びに関係機関から約80名が出席し、本会からは高橋専務理事が会長代理として出席した。式典では、大友喜助協議会会长（角田市長）の式辞で始まり、佐藤武敏協議会副会長（角田土地改良区理事長）による経



予備契約書に調印



調印を終え、握手を交わす

(平成24年4月1日現在)

土地改良区名	角田土地改良区	角田隈東土地改良区	計
土地改良区名の前身等	内川尾袋川・角田上水土地改良区 伊具郡丸森町館矢間土地改良区	伊具郡青木土地改良区 沼尻土地改良区	
所在地電話	角田市角田字中島下458 0224-63-1234	角田市枝野字畠中88-1 0224-63-1001	
設立年月日 認可番号	S47年5月1日 宮区第313号	S34年8月31日 宮区第254号	
理事長名	佐藤 武敏	亀谷 久雄	
関係市町村	角田市・丸森町	角田市・丸森町	
地区面積	2,976ha	2,191ha	5,167ha
組合員数	3,199名	2,315名	5,514名
総代数	60名	45名	105名
理事数	8名	8名	16名
監事数	3名	3名	6名
職員数	11名（男11・女0）	7名（男6・女1）	18名
現在実施中の事業名	基幹水利施設管理事業 国営造成施設管理体制整備促進事業 土地改良施設維持管理適正化事業	豊かなふる里保全整備事業 土地改良施設維持管理適正化事業	

過報告の後、新組織名を「あぶくま川水系角田地区土地改良区」とすることなどを盛り込んだ、予備契約書に、各理事長らが調印した。最後に、亀谷久雄協議会副会長（角田隈東土地改良区理事長）の閉会挨拶で調印式を閉じた。今後は、平成26年4月1日の合併許可による5,167ha（県内3番目規模）の土地改良区設立を目指す。



調印式会場



万歳三唱

宮城県農業用水水源地域保全対策推進協議会

～平成24年度総会が開催される～

去る3月13日（水）土地改良会館4階役員室において、宮城県農業用水水源地域保全対策推進協議会平成24年度総会が開催された。

当日は、協議会会員等11名が出席する中、高橋清隆会長（水土里ネットみやぎ専務理事）が主催者を代表して挨拶を行った。議事は高橋会長が議長となり、第1号議案から第2号議案の2案件が審議され、原案どおり承認可決された。第2号議案では、宮城県農業用水水源地域保全対策推進協議会の解散について審議された。

本協議会は平成19年度に設立され、平成24年度までの6年間、県内の農業用水水源地域の保全対策に関する普及促進活動を推進してきたが、本年度をもって事業期間が満了を迎えたことにより、本協議会についても本総会をもって解散する事となった。

なお当日の提出議案は次のとおり。



高橋会長のあいさつ



平成24年度総会

(提出議案)

第1号議案 事業活動報告について

第2号議案 宮城県農業用水水源地域保全対策推進協議会の解散について



コスト縮減と耐震化を同時に実現!

自然流下では
整備が困難な地域に最適なシステム。

真空式下水道システムはこんな地域に最適です。

- ◆道路面より民家が低い地域
- ◆道路と民家の間に水路あり
- ◆道路下に大きな埋設物
- ◆路地が狭く深埋設できない

地震に強いライフライン／街づくりに貢献する究極の管路システム

サイバックシステム

積水化学工業株式会社 環境・ライフラインカンパニー 公共インフラ事業部 東京都港区虎ノ門2丁目3番17号(虎ノ門2丁目タワー) TEL: 03-68450

東日本支店 宮崎バリューチェーン営業部

東北官需営業所 022(298)6043

東京官需営業所 03(5521)0646

関東官需営業所 048(646)0160

中部支店

宮崎バリューチェーン営業所 052(957)5303

西日本支店 宮崎バリューチェーン営業部

近畿官需営業所 06(6365)4546

中・四国官需営業所 082(224)6219

九州支店

宮崎バリューチェーン営業所 092(271)1314

積水化学北海道(株)

営業本部 011(737)6330

エスロンタイムズ on the Web <http://www.eslontimes.com>

平成24年度 みやぎの中山間地写真コンクール審査発表!!

去る3月22日（金）宮城県土地改良会館4階役員室において、「平成24年度みやぎの中山間地写真コンクール」の審査会が開催された。

このコンクールは平成14年度から実施しており、今回で11回目の開催となった。中山間地域の四季・風景・暮らしを紹介してこの地域の存在の重要性を広く県民にアピールし、認識してもらうことを目的としている。



審査会の様子



最優秀賞 【豊作の喜び】

撮影者：早坂 昭夫

撮影地：気仙沼市赤岩羽田地区

【審査員】

- ・宮城県中山間（協）会長（七ヶ宿町長） 梅津 輝雄 氏
- ・宮城県農林水産部副参事兼課長補佐（総括担当） 佐藤 真之 氏
- ・宮城県写真連盟会長 永井 優氏
- ・水土里ネットみやぎ専務理事 高橋 清隆 氏

応募総数は37点となり昨年度の23点を上回り、最優秀作品「豊作の喜び」1点と優秀作品2点「金津の七夕」、「梅干し」、佳作5点を決定した。

なお入選作品については、下記の水土里ネットみやぎホームページに掲載しておりますので是非ご覧下さい。

水土里ネットみやぎ

<http://www.mlw.or.jp>



**優秀賞【金津の七夕】**

撮影者：斎藤 政征

撮影地：角田市金津地区

**優秀賞【梅干し】**

撮影者：山本 正彦

撮影地：角田市尾山

**佳作【豊作の仲間たち】**

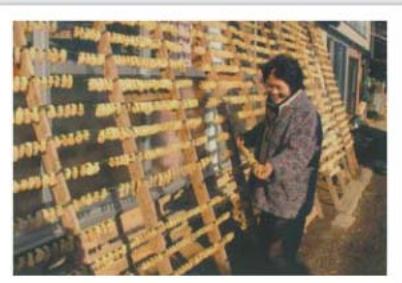
撮影者：宍戸 司

撮影地：丸森町上滝西

**佳作【補 植】**

撮影者：木村 文武

撮影地：蔵王町

**佳作【乾燥状態を見るヘソ大根】**

撮影者：伊藤 今朝藏

撮影地：丸森町

**佳作【ひと休み】**

撮影者：渡辺 袋裟実

撮影地：仙台市泉区朴沢

**佳作【春うらら】**

撮影者：湊 まや

撮影地：丸森町



去る2月5日（火）仙台サンプラザ3階クリスタルルームにおいて、「みやぎ農業農村震災復興シンポジウム」が開催された。

東日本大震災からまもなく2年目を迎える、農地・農業用施設の復旧が本格化してきているなか、復旧復興状況や課題を共有し、農村地域の震災復興の一層の推進を図ることを目的に開催された。

当日は、東北農政局・宮城県・市町村・土地改良区・水土里ネットみやぎなど関係団体から300余名が出席した。



会場の様子



講演：東北大学大学院農学研究科
伊藤 房雄教授



講演：(独) 農研機構農村工学研究所
原口 暢朗上席研究員

シンポジウムでは主催者を代表して、宮城県農林水産部山田義輝部長が挨拶を行い、引き続き東日本大震災支援者表彰式が行われ、関係会社に感謝状が贈呈された。講演では東北大学大学院農学研究科伊藤房雄教授より、「地域農業の再生・復興に向けた合意形成」と題して、3. 11東日本大震災の影響と課題や震災復興に向けたこれまでの地域農業づくりや理想的な地域農業の実現に向けた課題等について講話があった。

次に「津波被災農地の除塩対策について」(独) 農研機構農村工学研究所の原口暢朗上席研究員より津波被災農地の復旧経過状況や土壤の塩分濃度の推移及び残存状況等について報告があった。

また、復旧復興に取り組む災害現場からの技術報告と題して、各地方振興事務所から技術報告があり、短い報告時間ではあったが、災害復旧に取り組んだ技術的課題などについて説明があった。

最後に、本会高橋清隆専務理事

の閉会挨拶によりシンポジウムの一切を終了した。シンポジウムの終了後には、意見交換が行われ、参加者は復興に向けての認識を新たにしていた。



閉会の挨拶
本会高橋専務理事

平成24年度東北農政局所管農業農村整備事業等優良工事等表彰式が開催

去る3月22日（金）に東北農政局8階講堂において、平成24年度東北農政局所管農業農村整備事業等優良工事等表彰式が開催され、本会は東日本大震災関係功労者として、東北農政局長より感謝状を授与した。

この度の感謝状は、東日本大震災に際し震災直後の厳しい状況の中、管内で被災した諸施設の早期復旧のため、被災状況緊急調査等に尽力し、被災地域の農業生産基盤等の早期復旧と安定化に貢献があったと認められたことによる。



感謝状



表彰式記念撮影

ISO9001：2008 定期審査が実施される

去る2月21日（木）～22日（金）の2日間にわたり、認証機関である(財)日本品質保証機構（JQA）による、ISO9001：2008規格に基づく品質マネジメントシステムの継続的な適合性及び有効性、ならびに認証の範囲に対する適切性についての定期審査が実施された。

本会では、ISOを取得してから10年が経過し、今回の審査は通算17回目となった。

審査は、本会プロセスであるQMS、契約、調査・管理、設計、購買の各プロセスについて実施され、その結果、組織全体としての品質マネジメントシステムは継続して有効であると判定された。



トップマネジメントインタビュー



企業内見学（水質分析試験室）